神奈川新聞
平成14年5月12日

三浦市民「定住」希望8割超も…

市社協アンケート

環境に満足、課題は「福祉」「道路」

自然豊かな三浦に住み続けたい―。八割を超す市民がこんなふうに願い、地域への愛着度が非常に高い一方で、市人口（四月一日現在、五万一千六百二十七人）は減っている。市社会福祉協議会のアンケート結果から見えてきた三浦市民像と、市の抱える問題点を探った。

（小野　たまみ）

●深刻な「老老介護」

世帯構成を見ると、六十代から七十代の夫婦世帯が多く、二・三世代と同居している家族が36％と依然トップであるものの、夫婦のみが27・8％と二位につけ、核家族化の進行が垣間見える。

また、家族に寝たきり、病気、障害など要介護者がいると答えた人は22・2％で、およそ五軒に一軒の割合であることも判明。その主な介護者は、「配偶者」35・6％、次いで「子供」23・3％。年齢別に見ると、五十代から七十代が大半を占め、みずからも健康状態に不安を抱えており、いわゆる「老老介護」の実態が浮き彫りとなった。

さらに「将来に対する不安」（複数回答）は、「介護者になった時」48・2％、「痴ほうになった時」40・4％、「体力の低下」34・8％と、主に健康面を憂慮する声が目立った。

●近所付き合い緊密

近所との付き合いは（同）、64・6％が「あいさつをする程度」だが、「おすそ分けをする」40・6％、「留守の時に声を掛け合う」35・1％、「悩みを相談する」29・5％と、地域と積極的にかかわる住民も多く見られた。

困った時の相談相手は（同）、「友人・知人」39・2％を筆頭に、「親戚」34・1％、「民生委員」25・9％と続いている。

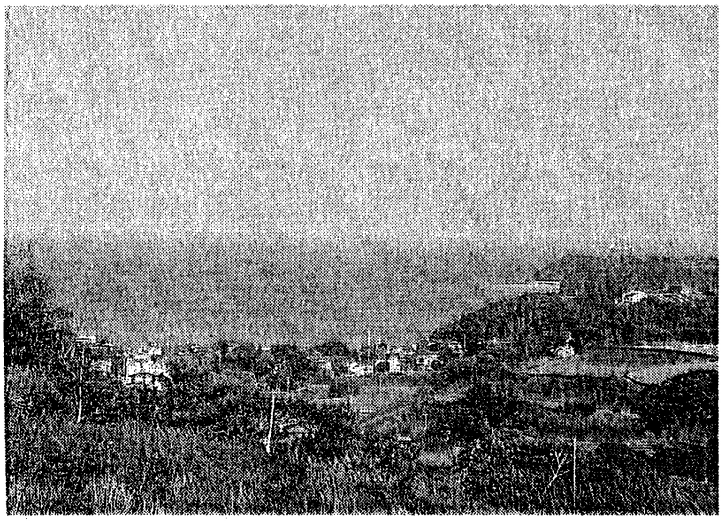
「現在住んでいる地域に住み続けたいか」という設問には、86・5％が「はい」と答え、その理由に「自然が豊かで環境がよい」ことを挙げている。ただし、福祉政策や行政サービスに対する満足感を理由に挙げている人は皆無で、「いいえ」と回答した人の多くが、「道路交通網の未整備」に不満を持っていた。

最後に「市は今度どうあるべきか」との問いには（同）、62・9％が「保健・医療の充実」を望み、次いで「福祉事業の充実」48・5％、「地域経済の振興」42・3％が挙げられている。

市人口に占める六十五歳以上の高齢者の割合は20・3％。それだけに福祉政策の充実が求められるが、若い世代の市外流出を防ぐためにも、雇用の創出、育児環境の整備、交通の便の向上なども欠かせない。

同協議会では「財政難の中、何を優先させるのか、プロセスを公開し、住民のコンセンサスを得るようにしたい」とし、今回明らかになった「市民の声」を第二次地域福祉活動計画の策定に反映させたいとしている。

アンケートは、同協議会が地域福祉活動計画を策定する際に、住民ニーズを知ろうと昨年十一月から十二月にかけて実施した。無作為に抽出した市民四百人と福祉団体関係者四百人の計八百人にアンケート用紙を配布、十代から八十代までの男女六百七十八人から回答があった（回答率84・75％）。



海に畑に自然豊かな三浦市。アンケートでは、定住希望が8割を超した

日曜リポート